



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北大百年史 部局史. 口絵. 序. 凡例. 北大百年史 部局史 総目次
Citation	北大百年史, 部局史, 1-11
Issue Date	1980-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29946
Type	other
File Information	bukyokusi_mokuji.pdf

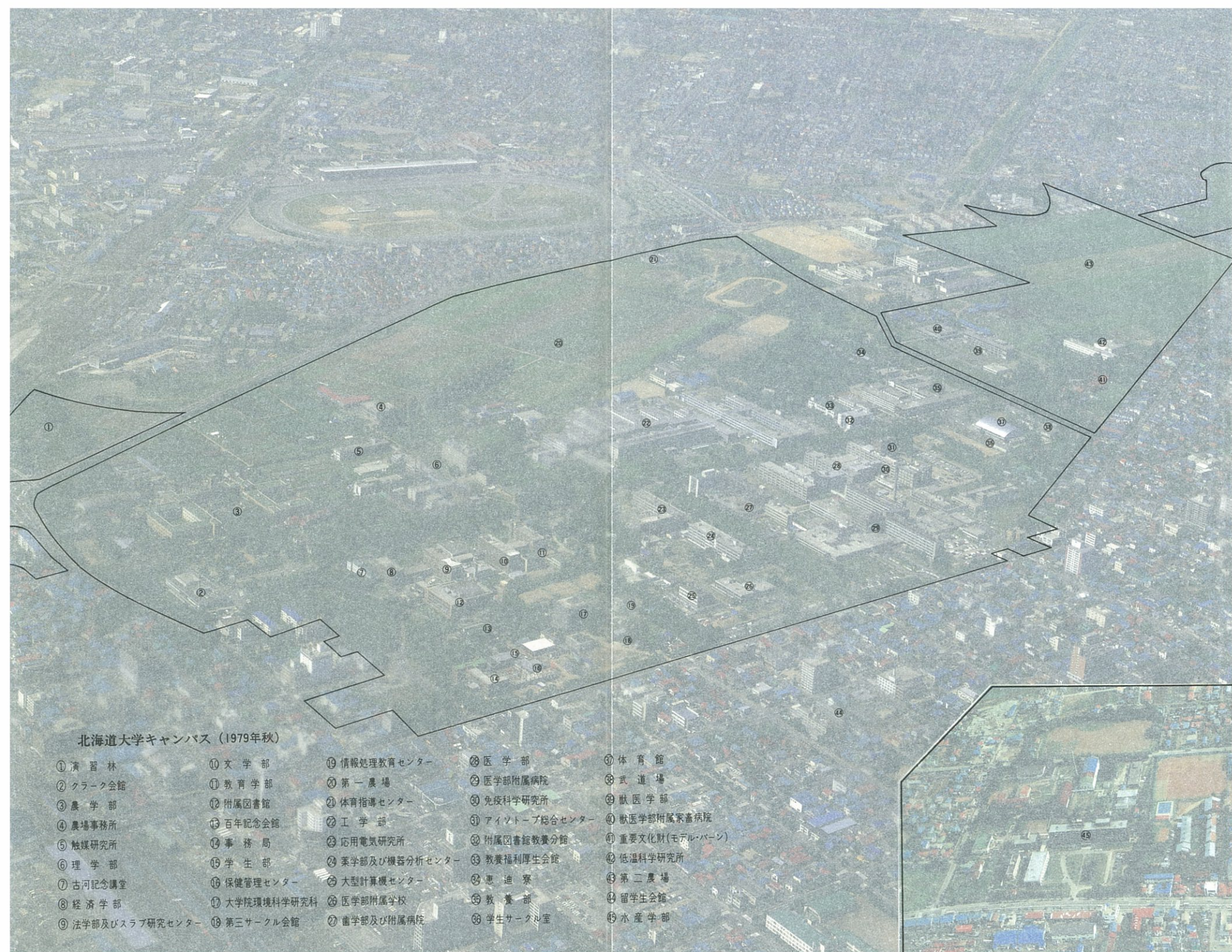


北大百年史

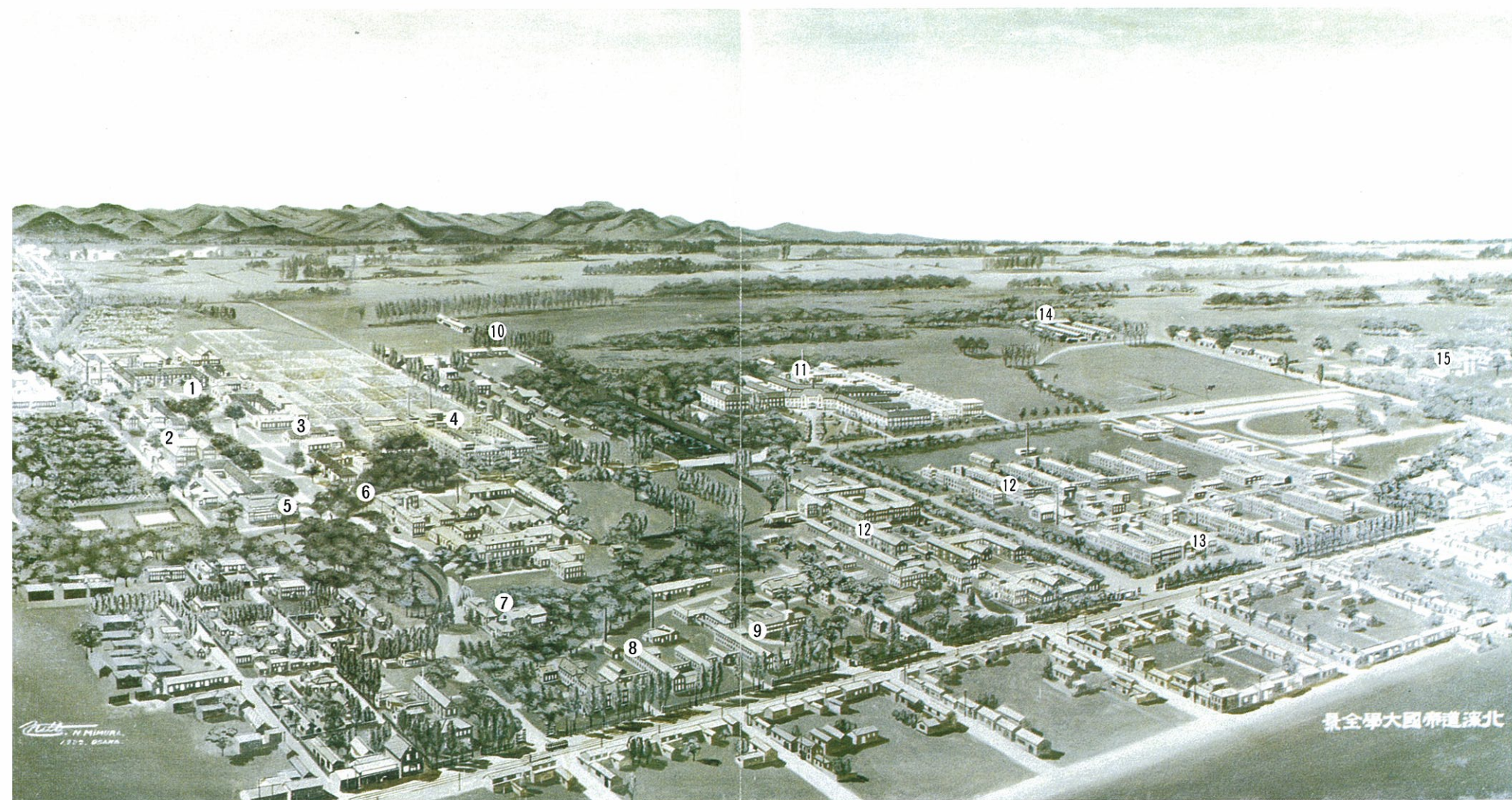
部
局
史

北海道大学キャンパス（1979年秋）

- | | | | | |
|------------------|--------------|-----------------|----------------|------------------|
| ① 演習林 | ⑪ 文学部 | ⑲ 情報処理教育センター | ㉔ 医学部 | ㉗ 体育館 |
| ② クラーク会館 | ⑫ 教育学部 | ㉕ 第一農場 | ㉖ 医学部附属病院 | ㉘ 武道場 |
| ③ 農学部 | ⑬ 附属図書館 | ㉖ 体育指導センター | ㉗ 免疫科学研究所 | ㉙ 獣医学部 |
| ④ 農場事務所 | ⑭ 百年記念会館 | ㉗ 工学部 | ㉘ アイソトープ総合センター | ㉚ 獣医学部附属家畜病院 |
| ⑤ 触媒研究所 | ⑮ 事務局 | ㉘ 応用電気研究所 | ㉙ 附属図書館教養分館 | ㉛ 重要文化財(モデル・バーン) |
| ⑥ 理学部 | ⑯ 学生部 | ㉙ 薬学部及び機器分析センター | ㉚ 教養福利厚生会館 | ㉜ 低温科学研究所 |
| ⑦ 古河記念講堂 | ⑰ 保健管理センター | ㉚ 大型計算機センター | ㉛ 恵迪寮 | ㉝ 第二農場 |
| ⑧ 経済学部 | ⑱ 大学院環境科学研究科 | ㉛ 医学部附属学校 | ㉜ 教養部 | ㉞ 留学生会館 |
| ⑨ 法学部及びスラブ研究センター | ⑲ 第三サークル会館 | ㉜ 歯学部及び附属病院 | ㉝ 学生サークル室 | ㉟ 水産学部 |







北海道帝国大学キャンパス(1932年)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| ① 農学部 | ⑥ 古河記念講堂 | ⑪ 工学部 |
| ② 水産専門部 | ⑦ 本部 | ⑫ 医学部 |
| ③ 図書館 | ⑧ 予科 | ⑬ 医学部附属医院 |
| ④ 理学部 | ⑨ 土木専門部 | ⑭ 恵迪寮 |
| ⑤ 中央講堂 | ⑩ 第一農場 | ⑮ 第二農場 |

序

北海道大学は、一九七六年（昭和五一）創基百周年を迎えた。これを記念する事業の一つの柱として、通説、部局史、史料編よりなる北大百年史三部作を企画したが、この度その第一陣として部局史が上梓される運びとなったことは、喜びにたえない。

「部局」というのは、一般には耳なれない言葉であろうが、これはもともと、大学内の組織を指すものとして、教育公務員特例法に使われている法令用語なのである。同法はこれに明確な定義を与え、学部、研究所のほか該当する組織の範囲を限っている。学内には、この呼称に従って設けられている部局長連絡会議があり、本書における部局の意味も、ほぼこれと同じといつてよい。

これら大学の部局は、それぞれ独自の存在理由をもち、学問の自由の保障のもとに広汎な自治権を享有して教育、研究活動を行う組織体であつて、大学はその総合の上に成り立っているのである。部局ごとの歴史が、個別に記述され、その全体が、本学の部局史を構成する理由はここにある。

本学は、札幌農学校（一八七六年＝明治九）、東北帝国大学農科大学（一九〇七年＝明治四〇）の時代を経て、一九一八年（大正七）北海道帝国大学となった。大学令の制定に伴い、翌一九一九年（大正八）、農科大学が農学部と改称され、とともに医学部が設けられ、ここに、部局史の開幕が告げられることになったのである。

したがって、百年の時点でいえば、まさに、後半の五〇年が、部局史の占める時代区分である。この間に北大は大

きく発展した。

農学部、医学部に続いては、工学部（一九二四年―大正一三）、理学部（一九三〇年―昭和五）が設けられた。これに、低温科学研究所（一九四一年―昭和一六）、触媒研究所（一九四三年―昭和一八）と超短波研究所（同上、なお一九四六年応用電気研究所と改称）の三つが加わった自然系の総合大学というのが、戦前における本学の姿であった。

戦後間もなく法文学部が設置された（一九四七年―昭和二三）。一九四九年（昭和二四）新制大学の発足とともに、本学は、法文、教育、理、医、工、農、水産の七学部を擁し、人文、社会及び自然の各分野にまたがる一大総合大学に成長するに至ったのである。

その後、法文学部は文学部と法経学部に分かれ（一九五〇年―昭和二五）、次いで、後者は、法学部、経済学部に分離し（一九五三年―昭和二八）、ここに、人文・社会系四学部が勢ぞろいすることになった。自然系では、獣医学部（一九五二年―昭和二七）、薬学部（一九六五年―昭和四〇）、歯学部（一九六七年―昭和四二）が次々に加わった。また一九五〇年（昭和二五）には結核研究所が設置されている（一九七四年免疫科学研究所と改称）。

以上が、本学における学部、研究所発展の歴史である。かくて本学は、国立大学の中では最も多数の一二学部と四研究所を擁するわが国有数の大規模な大学となった。

なお、本部局史の冒頭には、予科及び教養部の歴史が置かれている。予科は実は、一八七六年（明治九）札幌農学校発足の時以来のもので、一九〇七年（明治四〇）大学予科となった後、一九四九年（昭和二四）新制大学の下で教養部が設置されるに及んで、その使命を終えた。教養部は、当初教養学科として設置され（一九四九年―昭和二四）、その後（一九五七年―昭和三二）現在の名称に改められたが、一貫して、全学の教養課程教育担当の組織として設けられているものである。

本部局史においては、このほかなお、附属図書館、北方文化研究室、事務局、学生部及び各センターの歴史が述べられている。

本書は、以上の各部局史の集大成である。これにより、部局を中心とする北大の歴史的経過が詳細に明らかにされた。本書を手にした先輩の教職員や卒業生諸君は、この中から、青春、壮年の思い出の数々をくみ取られることだろう。現役の諸君は、この中に、将来に向かっての発展のための礎石を見いだされるに違いない。

しかし、それとともに、本書には、単なる主観的な回顧趣味を乗り越えて、日本の教育史、大学史の重要な幾こまかを、客観的に書き留めるために払われた執筆者の努力の跡も見いだされるはずである。その意図が理解され、本書が、さらに広い範囲から、多数の読者を迎えることを、心から期待している。

本書の刊行は、北海道大学創基百周年記念事業実行委員会出版専門委員会の委員長永井秀夫教授をはじめとする専門委員や北大百年史編集室の皆さん、各部局の編集、執筆担当者諸氏など、学内関係者多数の協力の下に実現したものである。ここでその労を多としたい。

また、本書の刊行資金としては、記念事業のために寄せられた多額の醸金が充てられている。この機会に醸金者各位に対し、重ねて、お礼の言葉を申し述べたい。

北大百年史三部作は、これにより、完成への明るい一步を踏み出すことができた。関係者のいっそうの御努力によって、一日も早くこの事業が有終の美をなすことを、心から望んでこの序文を結ぶこととしよう。

一九八〇年三月

北海道大学長 今村 成 和

凡例

一、本書は、北大百年史部局史として、それぞれ独立した各部局史（学部史・研究所史等）の諸編によって構成し、原則として各部局の創立より北大創基百年に当たる一九七六年（昭和五一）までの歴史を記述した。

一、各部局の資料、表等は付録として、年表とともに、各編末に掲載した。

一、文章の体裁等は、左記の諸項によった。

- (1) 本文は当用漢字、現代かなづかいによることを原則としたが、固有名詞・學術用語等は当用漢字以外も使用した。
- (2) 紀年は西洋曆により、適宜日本の年号を（ ）に入れて補った。学年曆上の年度や會計年度も西洋曆で表示した。
- (3) 本文中の氏名の敬称は省略した。
- (4) 固有名詞等読みにくいと思われるものには、ふりがなを付した。
- (5) 引用文等は、「」で囲み、あるいはやや小さな活字を用いて字下げを行い、本文と区別した。
- (6) 引用文の漢字は新字体に改め、かなづかいは原文のままとした。
- (7) 引用文中明らかな誤りは訂正し、疑義がある個所には（ママ）と傍注した。
- (8) 書名、新聞名、雑誌名等は『』で示し、論文名、パンフレット等は「」で示した。

北大百年史 部局史 総目次

序 凡 例

北海道大学長 今村 成 和

予 科

教 養 部

法 文 学 部

文 学 部

法 経 学 部

法 学 部

付 スラブ 研究施設

経 済 学 部

337

329

285

277

191

157

65

1

教育学部	373
理学部	433
医学部	525
歯学部	619
薬学部	665
工学部	695
農学部	857
獣医学部	1015
水産学部	1057
低温科学研究所	1149
応用電気研究所	1207
触媒研究所	1251

免疫科学研究所

..... 1311

附属図書館

..... 1343

北方文化研究室

..... 1377

事務局・学生部及びセンター

..... 1385

事務局

..... 1389

学生部

..... 1404

大型計算機センター

..... 1415

保健管理センター

..... 1420

体育指導センター

..... 1423

後記